

# ARP HURP

ハーブ通信

2007年

8月号

(第15号)

<http://www.hurp.info>

## 青年劇場の俳優たちによる朗読 『平和へのメッセージ』

2007年8月5日

今年も、この季節がやってきました。  
「平和」をテーマにした朗読劇の公演が新宿の青年劇場スタジオ YUI でひらかれました。昨年と同じく、たくさんの方が見に来ていました。

青年劇場劇団員有志の方が自主的に取り組んでいるこの催しも5回目を迎え、今年も11の作品が読みあげられました。その中から何点かをご紹介します。



**「勇気ある親友の死…」** (「イラクからの手紙——失われた僕の町ラマディ」より カシム・トゥルキ・作)  
イラクで働くエンジニアが、道端でけがをしている女性を見つけ車で病院に行く途中、アメリカ兵に止められた拳銃発砲を受けて亡くなってしまった話と、イラクでの子ども達とのやりとりの話です。おもちゃを配るアメリカ兵(周囲から攻撃を受けないように)とおもちゃをもらいに行く子ども達。そのひとりには、「もう撃たないで」と現地の言葉で訴えていた……そして筆者におもちゃを手渡して「このおもちゃはいらぬ。持っていたら他の友達が怒るよ」と去っていく……戦争は、人らしさ、子どもらしさをなくしてしまうものだという悲しさが伝わってきました。

**「佛陀の戦争」** (秋田雨雀・作)  
2つの国が国境の山を自分の領土にしようと果てしなく争っていました。そこにひとりの僧侶がやってきます。王に「このたたかいは何のためにやっているか」王は「民衆のためにやっている」と答えます。「あなたはそう言うが、やっていることは、実は民衆を苦しめている」と弾じ、去っていきます。もう一国の王にも同じことを話し、やがて争いは収まりました。戦争

の愚かさを説く僧侶は迫力がありました。

**「ヒロシマというとき」** (栗原直子・作)

アジアの人々が「ヒロシマ」という言葉を聞いたとき、どのように受けとめているか。短い詩ながらも考えさせられるものでした。

**「戦場」**

(暮しの手帖社「一菱五厘の旗」より)

花森安治・作)  
出演者全員が登場。「群読」という手法で、ひとりひとりが少しずつ、作品を読み上げていきます。



「ここは戦場ではなかった」ではじまり、戦争時の市街が描かれます。そこに空からの爆撃が開始されます。逃げまどい、助けを求める人々。「ここは戦場ではなかった。“焼け跡”だった。人々は単に“被災者”であった」と当時の人たちが教え込まれた認識が描かれます。しかし、現実には戦場であるはずのない所がもっとも悲惨な戦場になってしまった。「ここは戦場だった」「戦場だった」と全員が声をそろえるラストは、まるでその時の光景が浮かんでくるような迫力があり、怖くてゾクゾクしました。

ちなみに、この詩が掲載されている「一菱五厘の旗」(花森安治・著)は、召集令状のハガキが当時この値段で、自分たちの命の価値はハガキ1枚分ではないという怒りを描いたエッセイで、こちらもおすすめです。

どの作品も平和とは何かを考えさせられるものばかりでした。そして、翌日は広島に原爆が投下された8月6日。出勤前の8時15分、前日の朗読劇を思いだしながら、目を閉じました。  
(T本)



# 55周年記念 平和美術展

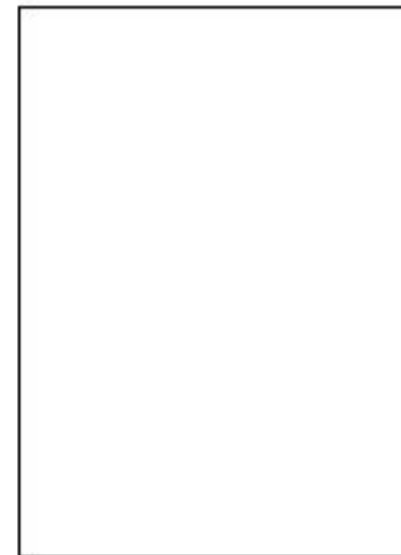
2007年8月4日

62年前の8月も、この日ようにジリジリするような暑さだったのでしょか。

今年で55周年を迎えた平和美術展（主催：美術家平和会議）が上野公園の東京都美術館で催されました。

油絵、水墨画、写真、水彩画、塑像……とジャンルを問わず、また、海外からも国籍を問わず作品が多く寄せられていました。風刺マンガ（カリカチュア）風の絵はストレートすぎて印象に残りました。

この展覧会で第7回以来続いている「被爆



者肖像画」は胸が熱くなりました。原爆に被爆し、近年亡くなられた方の肖像画を展示しています。添えられている伴侶の方のコメントが短いながらも心に響きました。

「仕事好きな人でした」や「いつもにこにこして穏やかな人でした」のような一言だけの方からは、たとえようもない想いが伝わってきました。そして、「長生きできてよかった」という言葉はひとつもありませんでした。

見終わった後、強い陽射しの中、平和って何だろう、と考えながら上野公園を歩きました。



## 法学館憲法研究所 連続講座「世界史の中の憲法」

### 第2回「『人権』という考え方の歴史」感想

ハーブの理事長で、法学館憲法研究所首席客員研究員の浦部法穂教授（名古屋大学）が、連続講座「世界史の中の憲法」全6回を終了し、現在、法学館のホームページから視聴することができます。

#### お申し込み：法学館憲法研究所HP

<http://www.jicl.jp/>

ハーブでは、毎月この講義を受講した方の感想を載せ、皆さんに講義の様子を体感してもらおうと思います。第2回は会員のKTさんに書いてもらいました。

#### ●第2回 「『人権』という考え方の歴史」

日本語で「人権」と訳される“Human Rights”とは、すなわち「人間として正しいこと」。だから、

『今の憲法が人権のことばかり書いてあるのは、不公平だ』と主張する人は、『今の憲法は人間として正しいことばかり書いてあるから、よろしくない』と言っているのに等しいのですよ」と浦部教授。

“正しいこと”ばかりでは不公平というなら、憲法には“間違ったこと”を入れなくてはならないのでしょうか、と。そう考えると、何だか可笑しいですね。浦部教授の講座には、いつもこうした“コロンブスの卵”的発想があります。

ではこの「人権」という考え方はどのようにして生まれたのか。第2回講座「『人権』という考え方の歴史」では、人権概念の成立過程を検証してゆきます。近代市民革命を通じて確立された立憲主義。それを理論的に裏づけたのが、ロックに代表される自然権思想でした。

市民革命の立役者たるブルジョアジーにとって何より重要だったのは「所有権の自由」という人権。それが、自らの労働を基盤とする各人固有の生存のための権利というロックのイデオロギーを媒介に正当化されることによってはじめて、人間が人間として生きていくために不可欠の権利「基本的人権」、ブルジョアジーの権利にとどまらず、広く人民一般に妥当する権利としての位置づけが可能になったのです。

ここに、近代における「基本的人権」という概念が、特殊歴史的に誕生しながら、時代や階級を超える普遍性をかちえていったダイナミズムを感じます。

私たちが今の社会の中で「人権」を主張すると、とかく“協調性がない”ヤツ、などとみなされがち。けれど「人権」の背後に、これだけの歴史があるということに確信をもてれば、怯むことなく“正しいこと”を主張する勇気が湧いてくるのではないのでしょうか。(K.T)

いかがでしたか。憲法についてもっと深く考えてみたくなった方は浦部先生の『憲法の本』がおすすすめです。(詳しくは上記HP、ハーブまで)



ハープのホームページの運営など、協力してもらっている(有)「サムクイック」さんが展開している「ふと、エコロ人」をご紹介します。

## 「ふと、エコロ人」現る

エコロジーという言葉が氾濫しています。果たして本質は？

自分たちで考えて行動したらどうなるのかな、

と考えるようになったのが『ふと、エコロ人』設立のきっかけです。「ふと、」思いついたから、この名前です。まずは自分たちで「エコロ行動」を試してみる。面倒なところなどをレポートし、検証する。ついでに興味を持ってくれた人たちに、私たちが使っているものと同様のエコログッズを買ってもらおう。これが『ふと、エコロ人』の全貌です。

「エコロ生活を気楽に実践。大義なきライフ環境検証サイト」と銘打っているのですが、そこに気軽な気持ちで繋がっていければ良いという程度です。「はじめたエコロ行動を続けていくために何をしたらいいか」を参加者と一緒に考えていけるサイトが理想です。

ところで、「エコログッズ」ですが、マイ箸、タンブラー、マイバッグを取り扱っています。「マイ箸→割り箸」「タンブラー→ペットボトル」「マイバッグ→レジ袋」をエコロ対抗項目とし、「使い捨ての利便性」を捨ててみようかと。興味を持たれた方は一度お試し下さい。

## ■エコログッズ

【マイ箸】 各種 1000～1800円

※それぞれのモデルで「箸」「箸袋」が異なります。スペシャルモデルは箸が「若狭塗り」や「あわび貝」、箸袋は一つ一つハンド



メイドで作られた筒型仕様です。下記のHPで詳細が見られます。

### 【タンブラー】

- ・ショートサイズ 1000円 (320ml)
- ・ロングサイズ 1000円 (457ml)

### 【マイバッグ】

- ・ゴミ減りトートバッグ 450円 (大容量、コットン)
- ・ゴミ減りコンパクトバッグ 950円 (ポーチ付、再生ペットポリエステル)

### 【エコロ3点セット】

- ・エントリーエディション 2000円 (エントリーモデル箸、タンブラー、ゴミ減りトートバッグ)
- ・スタンダード・ハイポジエディション 2200円 (スタンダード・ハイポジモデル箸、タンブラー、ゴミ減りトートバッグ)
- ・スペシャルエディション 3000円 (スペシャルモデル箸、タンブラー、ゴミ減りコンパクトバッグ)



いかがですか？わたし（T本）もお箸を購入して、会社に持って行って使っています。お弁当用に使用しており、まだ、外食で使う勇気はありませんが、使い心地はととてもよいです。興味が出てきた方、買ってみようかなと思われた方は、「ふと、エコロ人」のホームページをのぞいてみてください。また、ハープでも受け付けておりますので、どうぞお問い合わせください。

## 「ふと、エコロ人」HP

<http://www.futoecolo.com/>





毎月一回、HuRP は平和ドキュメンタリー映画の上映会を開催しています。

平和憲法施行 60 年間を記録映像によって検証していきたいと思えます。なかなか観ることができない映画ばかりです。

お誘いあわせのうえ、ぜひご来場ください。

日時：

2007年8月29日(水)19:00～21:00

会場：伊藤塾東京校5号館

(渋谷駅徒歩3分)

会費：500円 (HuRP 会員・学生・伊藤塾塾生は300円)

上映作品：

「1960年6月安保への怒り」

(1960年、野田真吉・富沢幸男、44分)

「裁かれる自衛隊」

(1967年、片桐直樹監督、28分)

北海道恵庭町の酪農家が自衛隊法違反に問われ、自衛隊法そのものの違憲性が問われた恵庭事件を追った映像です。

お問い合わせ：HuRP のホームページ

<http://www.hurp.info/index.html>

カラダに平和を 自炊のススメ

## 15 豆腐とゆでたまごの中華風和え

先日、会社の人と食事に行く機会があり、餃子を中心に食べさせてくれる中華料理店に入ったのですが、餃子もさることながら、サイドメニューがまたおいしかったのです。その中の、豆腐とたまごの中華和えがさっぱりしていて、ぜひ家でやってみたいと思いました。

材料：豆腐、ゆでたまご、ネギ、ザーサイ

手順：

- 1、ゆでたまごは8等分くらい、ネギはみじん切り、ザーサイはそのままか、適当な大きさに。
- 2、しょうゆ・砂糖・お酢・ネギとニンニクのみじん切りで【中華ダレ】を作る
- 3、豆腐に具をのせて【中華ダレ】をかけてできあがり！

栄養満点、お酢が効いてさっぱり、夏にピッタリですよ！



以前(第12回「お豆腐に缶詰」)をやったばかりですが、お店のものがあまりにおいしかったので……

8月は平和について考えるイベントが多くありました。まだ、これから催されるものもあります(わたしたちの映画上映会など)ので、出かけられてはいかがでしょうか。：梅雨が明けたとたん、その遅れを取り戻すかのような暑さが続いています。上のメニューをたべてのりきってください！(T本)